Rotary 成田空港南ロータリークラブ
2016-2017 国際ロータリー 第2790地区 第6分区
人類に奉仕するロータリー
昭和41年10月6日創立 ／ 昭和41年11月21日承認
例会日時 毎週木曜 12:30 点鐘
（最終例会 18:30 点鐘）
例会場 中国ダイニング冨士屋
URL http://www.narita-airport-m-rc.jp
E-mail info@narita-airport-m-rc.jp
事務局
〒289-1732 千葉県山武郡横芝光町横芝1519-6
TEL 0479-80-1177 FAX 0479-80-1178
第2790地区ガバナー 青木貞雄 第6分区ガバナー補佐 河野知宏

平成 29 年 3 月 2 日発行 NO. 2173 第 2326 例会 会長 渡邊 孝文 幹事 市原 豊彦 会報委員長 上原 広嗣

例会報告（平成 29 年 2 月 15 日）

2016-2017 年度 国際ロータリー第 2790 地区
第 6 分区 インターシティーミーティング

テーマ 「人類に奉仕するロータリー」

会場 日本メディカルトレーニングセンター

12:30 登録開始

13：30 式典１ 司会進行 麻生正視ガバナー補佐幹事

点鐘 ガバナー補佐

国歌斉唱、ロータリーソング「奉仕の理想」

開会のことば 今井征二ＩＭ実行委員長

歓迎のことば 篠田哲寿茂原東ＲＣ会長

物故会員黙祷 河野知宏ガバナー補佐

来賓並びにリーダー紹介 河野知宏ガバナー補佐

来賓あいさつ 茂原市長 田中 豊彦 様

ガバナー補佐あいさつ 河野知宏ガバナー補佐

14：00 リーダー講演

「人類に奉仕するロータリー」 ～ 規定審議会について

パストガバナー 杉木 禧夫 様

14：30 特別講演

「モンゴルと私」 元ＮＨＫｱﾅｳﾝｻｰ/千葉県熊野神社宮司

宮田 修 様

休 憩

15：30 式典２

次年度ガバナー補佐紹介 河野知宏ガバナー補佐

次年度ガバナー補佐あいさつ 茂原中央ＲＣ 志田 延子

次年度 会長幹事紹介 志田延子次年度ガバナー補佐

次年度ホストクラブ会長あいさつ

閉会のことば 中村憲太郎茂原中央ＲＣ次年度会長

16：10 懇親会

乾杯 志田延子次年度ガバナー補佐

ガバナー補佐あいさつ

ガバナー補佐　　河野　知宏

国際ロータリー第 2790 地区第 6 分区のインターシティーミーティングの開催にあたり、茂原市長 田中豊彦様には公務ご多忙のところご臨席賜り心から厚くお礼申し上げます。また、ご講演をいただく宮田修様、並びにバストガバナー 杉木禧夫様には、インターシティーミーティングでのご講演を快くご承諾いただき誠にありがとうございます。ご承知の通り第 6 分区のインターシティーミーティングは、長生・山武・夷隅 3 郡市 9 クラブの会員が一同に会し、親睦、情報教育、意見交換を通しロータリアンの思想を学びロータリーへの共通の理解を深める会議です。そして本年度のインターシティーミーティングのテーマは「人類に奉仕するロータリー」ですが、本日の会議を契機として会員各位の力を集結し、テーマの具現化に取り組んでいただきたいと考えます。本日は多くの会員のご参加をいただきありがとうございます。

特別講演

「モンゴルと私」

元ＮＨＫｱﾅｳﾝｻｰ/千葉県熊野神社宮司
宮田　修　様

次年度 地区委員紹介

米山記念奨学委員会委員長　　冨　　一美
研究･研修統括委員会理念研究委員会副委員長
土屋　俊夫

土屋会員 / 冨会員

次年度
志田延子ガバナー補佐

次年度 会長幹事

次年度会長 前川成吉 / 次年度幹事　倉石昌治

リーダー講演

「人類に奉仕するロータリー」～規定審議会について

パストガバナー　杉木　禧夫

皆さんこんにちは。第６分区、ＩＭ開催にあたり多くのロータリアンがご参集下さり、盛大に行なわれ大変喜ばしく存じます。当分区ガバナー補佐河野様より講和を依頼され、相談の結果今年度のＲＩテーマで“Rotary Serving Humanity”（人類に奉仕するロータリー）に依拠しつつ、昨年の規定審議会での評価についてこの様な機会を捉え触れておかねばと考えまして副題といたしました。今回の評価は賛否両論あったと存じますが、我々ロータリアンが長らく持っていた行動基準というものの大転換を意味するもので、この問題を熟知されている方、又入会間もなくよく理解されていない方、我々ロータリアンにとり重要な位置付けというべきものでございました。よろしくご理解賜りたく存じます。

その規定審議会とはシカゴのＲＩ本部で３年に一度各地区から１名の投票権を有する地区クラブ代表議員等で構成され実施されるＲＩの立法機関でございまして、ＲＩの組織規程を改正する権限を有し、組織内から提出された制定案と決議案について審議決定致します。即ちＲＩ定款、細則そして標準クラブ定款を改定する権限を持っております。詳しく申しますと制定案とはＲＩ定款、細則、標準クラブ定款の改正を目的とし、決議案とは改正するのではなくい年の表明やＲＩ理事会への要請を目的とし拘束力はございません。2016 年度の規定審議会は同年４月 10 日より 15 日まで行われ、その採択されたもののうち我々にとり主要なもの８点について述べてみたく存じます。

１．クラブ会員の入会金を廃止する県

入会金の規定をすべて廃止し、ロータリアンになれる見込者の枠を増やす。(採択 232:228)

２．奉仕の第二部門を改正する件

職業奉仕に「自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれるとすることを追加しております。これは奉仕の仕方が単数から複数、即ち個人奉仕から団体奉仕、職業奉仕から社会奉仕への活動を意味しております。(採択 254:210)

３．クラブ例会と出席に柔軟性を認める件

各ロータリークラブの細則で例会頻度と出席に関する規定を定めるようクラブに柔軟性を与える。毎月最低２回の例会開催に修正。(採択 392:82)

４．直接あるいはオンラインの両方による例会出席を認めるよう出席規定を改正する件

従来型のクラブでもオンラインでの参加に必要な技術インフラが設置されている場合はオンラインによる参加も通常の出席として数えられる。(採択 322:188)

５．会員身分に柔軟性を認める件

クラブが最速で独自決定し、柔軟性を与える。職業分類を削除できる（採択 386:75)

６．ローターアクターが正会員となることを認める件

ローターアクターとロータリー学友にロータリークラブ会員となる資格を与える。これによって職業分類が一時的に制限を超えてもよい。ローターアクターは２重会員になれる。(採択 413:97)

７．従来型クラブとＥクラブの区別をなくす件

通常クラブの例会を時によっては、ウェブ上でも開催し、あるいはＥクラブ例会を時によっては、オンラインだけではなく、実際に額を会わす例会を開催することもできる。(採択 355:145)

８．人頭分担金の増額の件

2017～18 年度から 2019～20 年度まで人頭分担金を年に１ドルずつ増額すると決定していたものを、ＲＩ副会長より修正案が提出。投資収益の悪化により、毎年４ドルずつの増額。17～18 年度 60 ドル、18～19 年度 64 ドル、19～20 年度 68 ドルへ大幅増額が決定。（採択 317：197）

以上の８項目は私なりの判断で主要なものとして今回取り上げましたが、この内容たるや少々の変更ではなく、ロータリーにとり歴史的にも大転換を意味するものと私は考えております。特にロータリーの金看板というべき職業奉仕の考え方、そしてクラブ例会開催と例会出席の緩和、加えて会員の職業分類の削除等の採択です。これ等はロータリーの根幹を為すもので、ロータリアンの正に拠り所であった筈です。私自身はロータリーの心髄を曲げてまで、会員の退会防止、そして新入会員を増強し易くするとの一連の考え方に釈然としないものがございます。また、人頭分担金、即ち会員の年会費の増額は嘗てない大幅増額というもの

です。その増額理由がＲＩの投資の失敗だとし、その付けを会員に負担させるというもので正に愚挙と云えるものではないでしょうか。皆様はどの様に思われますか？

ところでこの度の規定審議会の結果を考えてみますと、私はロータリー財団をはじめとしてロータリーの慈善活動、その活動方法もボランティアの団体化への移行の始まりを意味している様に思えてなりません。慈善活動の肥大化はその活動源泉の資金を必要とし、会員の理解とクラブ会員の増強が必須となることが自然に理です。現在も組織拡大については各クラブ関係者はそれぞれ腐心しておられる事と存じておりますが、現有会員を維持しつつ新会員の増強を計ることを督励されることは当然の成り行きでございましょう。併しその実現には難渋していることが窺われ、それ故なのかどうかは判りませんが、この度の規定審議会での提案、採択結果はかなり思い切ったもので従前からの会員の責任、義務等の緩和、柔軟化が非常に顕著です。それはロータリーの存立の根源に抵触し私にとりましても理解を超えるものでございました。併しロータリーは多様な考え方を持つ人々の集団でございまして、この度の結果につきましてはクラブの活動に選択肢が広がり意欲的に行動ができるとむしろ肯定的に考える方々、あるいはロータリーの本質を害するのではと否定的に考える方々、両面の考え方があると存じます。勿論この選択は各クラブにはそれぞれ自治権があり、検討し、その上での判断はクラブ自身が保有していることは当然でございます。皆様はこのあたりどの様に思われますか？

ここで本年度のテーマは“人類に奉仕するロータリー”ですのでロータリーの奉仕について歴史的推移などについて触れてみたく存じます。2016 年 1 月中旬、私は第 6 分区のＩＭリーダーを依頼され、「ロータリーの将来について」という演題で私なりの考え方を述べさせていただきました。やや重複した内容もあるかと存じますがご容赦いただきたく存じます。ロータリーは 112 年前の 1905 年 2 月 23 日にシカゴにて誕生いたしました。その設立に際し、寄付、救済等を目的とするものではなく、会員同士の親睦と商いの相互扶助を求めたものでございました。併し乍ら会員集団が大きく発展期を迎えてまいりますと、その活動内容は紆余曲折を経ながらでございますが、当初の個々人を尊重する派と地域社会への奉仕に幅を広げるべきとする派との対立が生まれて参りました。その衝突から皆様ご承知の決議 23-24 が生まれます。その決議内容は奉仕をするにあたり理論派、即ち個人奉仕を尊重する人達、片や実践派は団体奉仕を主眼とする人達で、これら 2 派の人達が受け入れられるものでございました。重複した言い方になりますが、その内容は個人奉仕が原則であるが時によってはクラブによる社会奉仕、即ち団体奉仕はサンプル的に認められるというものでございました。両者の分裂はこの様なことからひとまず納まりましたが、このことでその後のロータリー独自といわれる職業奉仕（個人奉仕）と社会奉仕（団体奉仕）の判りづらさが生まれます。ここで申し上げたいことは、分裂を避けるためとは言え明確な指針をしっかりと示さなかったことが後々の混乱を招いたと私は考えております。繰り返しますがこの曖昧さにより両者の分裂を避けることが出来ましたが、今日まで何度かこの件において規定審議会で物議を繰り返すこととなります。この度も奉仕の単数から複数への変化（個人奉仕から団体奉仕）、職業奉仕から社会奉仕への移行に繋がって参りました。これはポリオ・プラス活動にみられるＲＩの指導権限が強まり、ロータリーの活動は益々団体奉仕の方向へと軌道修正が年々計られて参るものと私は考えております。併しロータリーの良さは個人の考え、自らの職業を第一と考えその上で社会に貢献することが本義であった筈で、この職業奉仕こそが他の慈善団体、ボランティア団体と一線を画すものでございました。皆様はこの点についてどの様に思われますか？

この際、奉仕の在り方について、ロータリークラブとライオンズクラブを比較検討してみたく存じます。

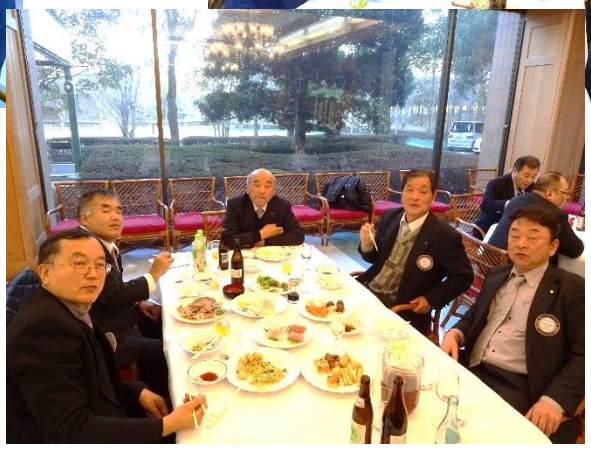
1905 年創立したロータリークラブは、奉仕の根幹は個人の職業を尊重し社会貢献を為すとのことでしたが、ライオンズクラブはその 12 年後の 1917 年にロータリークラブより分裂しメルボン・ジョンズ氏により創立されました。その奉仕活動について述べてみますと、ロータリークラブの奉仕はＩ serve（私は奉仕する）であり、片やライオンズクラブは We serve（我々は奉仕する）で、奉仕の仕方が個人を主眼とするか団体とするかの違いがございます。会員の構成はロータリークラブは職業分類による職業人、業界の代表者で職業を通じて、その職場、地域社会に奉仕し究極の目的は国際間の理解、親善、平和を推進することとしております。片やライオンズクラブは職業に関係なく奉仕に理解を持つ善良な市民により社会奉仕を目指しております。例会については、この度は変更がございましたが一般的にはロータリークラブは毎週 1 回とし、会員にとりその例会は「人生の道場」、学びの

場との位置づけです。ライオンズクラブは毎月２回行われ、奉仕を生む意義のある場と考えられます。詳細の比較は言えませんが、両者とも世界に特筆される社会貢献に寄付していることは周知の事実でございます。只、私が強調したいのはロータリークラブが他団体との大きな違いは、職業奉仕、即ち自らの職業の大切さを主眼としそれを依拠とし社会貢献を為そうとするところでございます。それが今回の規定審議会の結果によりますと、他の奉仕団体、ボライティア団体と変わらぬものとなりつつあることが残念でなりません。ここで、今まで何度も目にし、耳にしておりますが、改めてロータリーの標語を皆様と確認いたしたく存じます。

第一標語“Service Above Self”『超我の奉仕』

第二標語“They Profit most who serve best”『最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる』

前者は弱者を助ける人道的奉仕活動、即ち社会奉仕と一部の国際奉仕活動であり、その理念を標語としており、それは人道的奉仕活動の理念でございます。後者は事業の継続的な繁栄を願う職業奉仕の理念を標語としております。これはロータリー運動の本質とも云うべき職業奉仕の理念でございます。

話は変わりますが、1月20日米国ではドナルド・J・トランプ氏が第45代大統領に就任いたしました。その考え方の基本は、歴代大統領が世界のリーダー国を自認し行動してきたその任を放棄し、この度はアメリカファースト、即ちアメリカ第一主義を標榜し自国中心主義を唱えたトランプ大統領を米国民は諒承致しました。私の知る限りアメリカの歴代大統領が就任後、自国ばかりではなく世界各国を混乱と分裂するような政策を打ち出し続ける人物は、見当たらなかったのではないかと考えます。2月7日付日本経済新聞に、英国エコノミスト誌「革命」に揺れるワシントン、との標題で、トランプ氏の大言壮語に聞こえた大統領選での主張は、今や米国や世界を根本から変えるための本気の揺さぶりだ、との論評が掲載されました。作家司馬遼太郎のある作品の中で「革命とは、人間が思いつく限りの最大の陰謀である。」「英雄とは、天がその人物を必要と思えば、その人物に運と時を与えるものである。」と記しております。さて、今後トランプ大統領はアメリカ社会に革命を起こした英雄（ヒーロー）と成り得るか、あるいはアメリカ第一主義の影響を受け世界中に亀裂と混乱を招いただけの稀代の為政者と成り得るか、後々歴史が証明をすることになるわけです。これからの大統領の言動、行動を注視し続けなければならぬと私は考えております。世界に眼を転じてみますと、2016年には英国のＥＵ離脱、その他ＥＵ各国の指導者の考え方が内向きに変化しております。特にフランスを始めとし政治の右傾化が顕著です。曾て我々は、欧米、特にアメリカ社会を自らの未来図とし、その真似、模倣をしていれば一定の成果が期待できたわけですが、その様な時代は終焉し我が国も自立自尊を考える機会が到来したととらえるべきではないでしょうか。アメリカ同様、先進諸国は一様に格差社会の問題が顕著となり、ある識者は世界の政治、経済が大転換期に入ったと言及し、またある作家は第３次世界大戦の到来を意味すると過激な発言をするほど、先行き不透明な暗中模索の時代になったと考えております。私は12年前、2004～2005年度、皆様のお力添えを頂きガバナーの大役を務めさせていただきました。当時、識字率向上や水、保健問題等の問題が課題で地区大会では“世界はひとつに”を提唱いたしました。しかし、残念ながら12年後の現在でもこれらの問題はほとんど解決には至らず、国家間の対立から新たに更なる貧困が生まれ、曾て存在すらしなかったＩＳの台頭により国を追われ、何百万単位での難民が故郷を離れざるを得ない状況が発生しております。今後、政治による強硬な手法で解決をするならば、強硬な見返りを生む図式となることは当然で、新たなテロリストが誕生するかもしれないと危惧しております。また環境問題では地球規模の激甚災害の脅威に襲われ、年々難問山積の社会となっております。ロータリーは毎年テーマを掲げ、100年以上も奉仕活動として参ったわけですが、ロータリーが希求する世界理解と平和、安寧社会の実現には程遠く、むしろ後退しているのではないかとさえ思われます。それでも我々はどのような社会状況に於いてもそのニーズに応え、職業奉仕の自覚と実践、そして自己練磨に務めながら、親睦を深め、我々のクラブの一層の充実と発展に邁進していこうではありませんか。本日、私は何度か「皆様はどのように思われますか？」と問題を提起いたしましたが、多様化こそがロータリーの真骨頂でございますので、皆様なりの答えを見つけて活動していただきたく存じます。皆々様のご健勝とご活躍をご祈念いたします。ご清聴ありがとうございました。

懇 親 会